忘れてはならない１９５４年（昭和２９）３月１日

第五福竜丸　（漁船）　ビキニ環礁水爆実験で　「死の灰」　あびる

今年も３・１ビキニデーの集会が焼津市で開催されます。 茨城からも若者が大型レンタカーを借りるなど、参加準備に大童になっています。明るい陽射しが差し込んでいます。改めて３・１ビキニついて思い起こし勉強したいと思います。 以下は （株） 草土文化から出版された 『第５福竜丸』 からの抜粋です。

第五福竜丸は　「危険区域」　外にいた

アメリカは、 実験のため、 一九五二年、 一方的にエニウェトク環礁周辺に東西に長い長方形の 「危険区域」 を設定し、 一九五三年十月には、 さらに東に拡大した。 第五福竜丸は、 この 「危険区域」 外にいたのである。

「危険区域」 の設定は、 アメリカより、 外務省を通じて海上保安庁に通告されていた。 第五福竜丸の被災後、 三月十九日、 アメリカは 「危険区険」 を右下図のように扇形に大幅に拡大した。 水産庁も独自の判断で 「要報告指定水域」 を設け、 そこを通った船は指定の港 （塩釜、 東京、 三崎、 清水、 焼津） にはいり、 放射能検査を受けるよう指示した。

遠洋マグロ漁船・木造
総トン数＝一四〇・八六トン、 全長＝二八・五六メートル、 幅＝五・九メートル
東京都立・第五福竜丸展示館 （江東区夢の島） に保存されている。

巨大な火の玉と白い灰

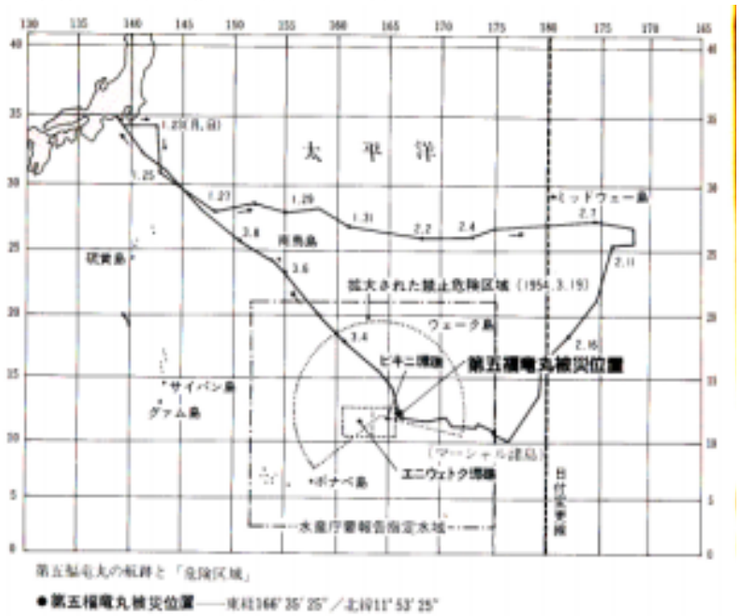
第五福竜丸は、 マグロはえなわ漁をつづけながら、 よい漁場をもとめて南下し、 マーシャル諸島の北西部に達していた。

三月一日未明、 午前三時五十分 （日本時間） ごろ、 ビキニ環礁から百六十キロメートルの海上で操業中、乗組員は西方の空に火の玉を目撃し、 そののち、 大きな爆発音をきいた。 やがて、 白い灰が降りはじめ、 しだいに甲板に降りつもり、 足跡がはっきりつくほどになった。

操業海域が、アメリカの原爆実験場に近いことを知っていた乗組員たちは、 火の玉と爆発音、 白い灰は、 核実験によるものだと気づき、 急いで帰ることにした。 しかし、 はえなわを揚げるのに時間がかかり、白い灰が降りしきる海上から脱出するのに五時間ちかくかかった。 その間、 乗組員は白い灰をあびつづけた。

この実験は、 アメリカが今日までおこなったなかでも、 最大級の水爆の爆発であり、白い灰は爆発によって生じた放射能を含むチリ＝ 「死の灰」 （放射性降下物） であった。 チリはサンゴ礁のかけらで、 炭酸カルシウムと水酸化カルシウムの粉末であった。

第五福竜丸は、 全速力で夜を日についで母港にむかい、 三月十四日早朝、 焼津に帰りついた。



第五福竜丸の航跡と「危険区域」
●第五福竜丸被災位置――東経166°35′25″／北緯11°53′25″

あゝ、　久保山さん

国府　昌英

久保山さんが書いたあの日記、 先生から読んでいただいた時、
ぼくはほんとうに　「そうだ。」 と思った。
久保山さんのようたいを　いつもラジオできいていた。
死ぬる前　久保山さんのようたいが、
だんだんよくなってきたときいた時、
ぼくは、 何もいえないぐらい　うれしかった。
それからまたわるくなった。
ぼくの体まで、 急につめたくなったような気がした。
二十三日の朝ごろ　ラジオは
放射能病がはげしくでて、 苦しい息をしだしたとつたえた。
その日の五時ごろ、 くり山副院長らが
「がんばってくれ、 がんばってくれ。」
とはげましたら、 久保山さんは、
「うん、 がんばるよ、 がんばるよ。」 といいながら、
ついに夜、 六時五十六分、 この世から去ってしまった。
ぼくは家族のみんなにつたえた。
おかあちゃんは 「うん、 うん。」 といっていた。
おとうちゃんは 「とうとう、 やったのう。」 といった。
にが虫をかぶりつぶしたような　青い父の顔だった。
平和の時代に、 つみのない人が、
しらないまに病気にかかり、 しらないまに死んでいく。
あゝ　久保山さん。

このおそろしさは、 日本のだれもが
いや、 世界全部の人たちが、 ききしったことであろう。
「すいそばくだん。」
「すいそばくだん。」
しかたがない　しかたがないと、 人々のいう中に
久保山さんは死んでいったのだ。

（岡山県総社市立総社小学校六年生・文集「町の子」より）

平和新聞　1918 号　（毎月 5,15,25 日発行）
1950 年 12 月 16 日第三種郵便物許可　　発行　**日本平和委員会**
1部140円　月額400円 〒105-0014　東京都港区芝 1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）　電話 03(3451)6377　FAX03(3451)6277

平和かわら版　平和新聞茨城版　No. 556　2010.2/25
発行：茨城県平和委員会　〒310-0912 水戸市見川 5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806　E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

平和かわら版　「そうだったのか！」

つくばみらい平和の会　　小川三也

平和かわら版ＮＯ．５５３で藤田稜威雄さんの「最近学んだことで“騙されていたこと”」を興味深く読んだ。その“騙されていたこと”とは、“昭和天皇の沖縄発言、佐藤首相ノーベル平和賞受賞、空爆を指導した米空軍ル・メイ将軍への勲章贈与、「坂の上の雲」の司馬史観”で、「今時点で自分の無知さ加減に腹が立っています」と、藤田さんが謙虚に述べているのが印象的だった。

平和運動に取り組む我々の人生経験も多様で、初めて知って腹が立つことも人さまざまであろう。藤田さんの記事を読んで、その人なりに印象深かったことを披露しあって共有するようにしてはどうか、と思った。隗より始めよ。印象に残ることを書いてみた。

１．「人間宣言」の原案はＧＨＱが書いたものだった。

戦争中の天皇は現人神（アラヒトガミ）だった。国民が生の声を聞いたのは、１９４５年８月１５日の「玉音放送」が初めてだった。幸い生き残った私は学徒動員中で当時１７歳。翌年元旦天皇の詔書、いわゆる「人間宣言」が発されたが、その原案はＧＨＱによって書かれたものであることを、数年前に知った。意外だった。天皇の政治的利用を考えていたＧＨＱが民主化された天皇のイメージを強くアッピールするためだったのだ。

（参考）吉田裕「昭和天皇の終戦史」Ｐ８１

２．戦争中は「御稜威の下」という言葉をよく聞かされた。

現人神について書くと、つけ加えたいことがある。現人神の時代には、「御稜威（ミイツ）の下（モト）で」云々と語る演説をよく聞いた。御稜威とは天皇、神などの威光のことで東条首相のかん高い声を今でも想い出す。この記事を書くきっかけになった藤田稜威雄さんの名前を話題にして申し訳ないが、戦中派の私には、「稜威雄」を“イツオ”と難なく読めた。広辞苑をみると「御稜威」は「稜威」の尊敬語とあり、「稜威」の語意ものっていた。今まで私は「稜威」という言葉があることを知らなかった。妻も同様だった。

＊（学徒出陣壮行会答辞より）…大御稜威の下、皇軍将士の善謀勇戦は、よく宿敵米英の勢力を東亜の天地より撃壌払拭し、…。

３．昭和天皇の「沖縄メッセージ」なるものを知った。

敗戦後の昭和天皇には沖縄についての隠された文書がある。１９４７年９月、米国が沖縄の軍事占領をし続けることを希望している旨のメッセージを、マッカーサーに送っていたのだ。これが天皇の「沖縄メッセージ」といわれるもので、敗戦からまだ２年、新憲法の施行から４カ月後の信じられないような事実なのだ。このことについて、豊下楢彦氏は次のように述べている。

“アジア・太平洋諸国を「危険にさらしていた」国の「象徴」が、その償いも何ら果たしていない段階で、しかも戦争放棄の新憲法第９条がなぜ求められることになったのかという歴史的な経緯もほとんど認識されていないかのように、ひたすら自らの国が「危険にさらされる」ことのみを考え、アジアや世界に眼を向けることもなく、もっぱら占領者のアメリカに「安全保障」を求めるという発想方法には、ただ驚かされるばかりである。…”（豊下楢彦「昭和天皇・マッカッサー会見」Ｐ５３）

この天皇の秘密メッセージが、最初に発表されたのは１９７９年（「世界」４月号）であった。

（参考）伊藤成彦「物語日本国憲法第九条」Ｐ１６８

４．“ものが二重にみえる”のは、脳梗塞の前ぶれだった。

健康問題で、初めて知って驚いたことがある。昨年６月、突然脳梗塞で倒れ、救急車で運ばれて２週間入院した。８１歳だが日頃は常用する薬もなく、健康を過信していたのでショックだった。入院中、“ものが二重にみえる”状態が続き、これが脳梗塞の前ぶれの一つであることも知った。無知は怖い。実は、倒れるまで遠くのものがなんとなく二重にみえる状態だったのに、パソコン、読書のやりすぎのせいだと思いこんでいたのだ。皆さん、健康に十分ご留意下さい。

事務局からの連絡とお願い

１．現在、月３回発行の『平和かわら版』の配布については、①平和新聞読者の会員の方には平和新聞に差込み、②２２の各平和委員会では会員に手配りをしてもらっています。③残りの会員の方には郵送費の関係で３部まとめて月１回、「２５日号」にまとめて送らせてもらっています。

今回、『平和かわら版』の第３種郵便の許可を取りましたので、いままで封筒で郵送していたものを帯封でお送らさせていただきます。

２．「かわら版」のニュースの速報性を高めるためにも、各平和委員会で手配りの体制がとれるようご検討をしていただけるようお願いします。

歓迎!! 新入会員のみなさんです

ともに平和の声を大きく広めていきましょう。

- ○　加藤　正敏さん　（笠間市）
- ○　飛田　元雄さん　（小美玉市・再入会）
- ○　吉川　路子さん　（かすみがうら市・再入会）
- ○　黒澤　一也さん　（水戸市）

亀・牛・かたつむりが歩むように、各平和委員会のみなさん１人１人の力で毎月５名の仲間づくりができれば最高です。

署名運動にエンジン全開！

東海村平和委員会　加藤　岑生

2月8日の幹事会で「核兵器のない世界を」の署名について話し合いました。

昨年の10月から全国の目標1,200万筆に見合う3,000筆を目指して、年金者組合、東海村新婦人の会支部と協力しながら、月2回、東海駅JUSCO前で11時から2時間、署名行動をしてきました。年金者組合は老人会に働きかけ、平和委員会は会員と新聞読者に協力をお願いしてきました。

しかし、現在の983筆では全国に恥ずかしくてNPT再検討会議に代表を派遣できないではないか？早急に、各団体との協議を行い、要請行動を行いましょうと。平和の問題は学校の先生に協力をお願いしては。教育委員会と話し合っては。自治会に回覧をお願いしては。と積極的な意見がだされました。

早速、奮起し、幹事３人で2/10（水）に「お願い」文を持って村内９校の小中高校を予約なしに訪問し、校長、教頭、教務に、先生方の署名をお願いしました。

非常に好意的な応対を受け、もっと早くにこのような取り組みを行うべきだと感激をしました。東海高校では毎年1，2年生は広島、長崎への修学旅行で原爆被災と被爆者の実体験を学んでいるとのこと、校門前での署名を認めると。また、小、中学校では核兵器がないことが原子力平和利用を進める前提で、東海村の特色ある教育を取り組みたいと。また、原水禁運動の原点、被爆者の願い核兵器をなくすことを大事にし、思想信条にとらわれない取り組みをすすめたい。

何としても村内の核兵器廃絶の願いをニューヨークに届けるべく今後自治会、保育園、病院などに働きかけ、目標を達成するために頑張りたい。